

(様式3)
【学校用】

ふるさと教育 取組事例

学校名	浜田市立雲城小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
5	総合的な学習 の時間	小国田んぼの米作り	おぐにまちづくりセンター てごの会
ねらい		金城の良さや、そこに住む人々のふるさとに対する思いにふれ、自分達に何ができるのかを考える。	

1 取組の概要

金城町小国地域はおいしいお米が収穫できる地域として知られている。また、学校の統合により旧小国小学校区の児童は雲城小学校に通学をしている。学校がなくなった地域の方々が、子どもたちとの活動を楽しみにしておられること、小国で田植えや稲刈りなどの体験を地域の方々と一緒にすることで地域の方の思いを知ることができること。さらに、小国のお米がおいしい秘密をさぐることで「ふるさとの良さ」を実感できると考えている。また、ふるさとの宝として、小国のお米の良さをPRしたり、活かそうとしたりする活動を通して、地域貢献の意識を高めることにもつながると考え、本活動を設定している。子ども達にもその思いを伝え、金城町の自然の豊かさや人々の心の温かさ、自分達に何ができるかを学んでいく学習を年間通して実施した。

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

金城町の自然の豊かさや人々の心の温かさ、故郷に対する人々の愛情を感じることで、自分達に何ができるかを学ぶために活用した。

(学力育成の視点から)

「米」という身近な題材を取り上げることで「調べてみたい」「もっと知りたい」という、主体的に学習に取り組む意欲を高めた。また、調べ学習の際には、一人一台端末を活用することで、体験活動を通しての気づきや疑問を個の興味・関心に応じて調べたり、全体にプレゼンテーションしたりすることができた。



3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等)

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

地域の自慢としてお米を大切に育てておられる地域の方の思いを感じ、ふるさとのよさとして自分の言葉や表現方法でPRすることができた。また、小国地域でとれたお米のよさや、お世話になった地域の方に対する感謝の気持ちを学習発表会の発表やお米の販売の場で保護者や教職員に伝えることができた。

(学力育成の視点から)

社会科との合科的な学習により、課題発見力や情報収集・活用能力、プレゼンテーションによる

表現力、体験活動や話し合いによるコミュニケーション能力が身についた。



4 課題や今後の展望

コロナ禍という状況で難しい点もあるが、年間計画に基づいた継続的な活動を行っていく。

